

「大久保商店街（千葉県習志野市）のアメニティマップづくり」

担当教員 吉永 明弘

コースの概要

日程 2021年2月10日～2月28日の任意の4日間

場所 千葉県習志野市大久保商店街周辺、および参加者が選んだ商店街

参加人数 4名

コースのねらい

- (1)「アメニティマップ」という手法を用いて、自らの環境に対する評価を可視化します。また他者の評価との比較を通じて、環境評価の多様性を確認します。
- (2)「空間の履歴」をふまえて環境を評価する手法を習得します。過去の地図を見ながら商店街を歩き、地域の歴史をふまえて現在の姿を評価します。
- (3) ある地域を他の地域との比較によって評価する手法を学びます。

内 容

(1) 各自で大久保商店街の「アメニティマップ」（良い所と悪い所を評価したマップ）を作成しました。

学生が評価したアメニティポイント①

学生が評価したアメニティポイント②

街灯に付属している、ベルを模したスピーカー

縁石のない平らな道



アメニティポイント（良いところ）としては、薬師寺瑠璃光苑、縁石のない平らな道、ベルを模したスピーカー、店の多様さと手軽さ、下町の雰囲気、海外からの店舗、医療施設の充実などが挙げられました。

ディスアメニティポイント（悪いところ）としては、シャッターが閉まっている店、道幅の狭さと自転車・自動車の危険性、空き地と粗大ごみなどが挙げられました。

商店街全体としては、駅から近く、人通りも多く、古くからの店と新しい店が混在しており、近くの公園や神社に開かれており、老若男女に対応したアメニティがある、学校が多く学生の街である、という評価がなされました。

(2) 90年前の地図を見ながら、現在も存在するお店を巡り歩きました。

空間の履歴：90年前の地図にも載っている本屋と酒屋



写真にある本屋と酒屋のほか、八百屋、肉屋、時計店など、いくつかの店舗が今も営業していました。開店当時から変わらぬ外観の建物と、建て替えられた店舗の両方がありました。建て替えられても、店の中には過去の歴史を示すもの（開店当時の賞状など）が残っていました。

(3) 他の地域との比較

参加者が各自で選んだ地域（成田市表参道商店街、佐倉市京成志津駅付近、厚木一番街商店街）のアメニティ調査を行い、大久保商店街との比較を行いました。また、参考資料として、松戸市本土寺参道の映像と、松山市と高松市の商店街の写真を提示し、それらとの比較も行いました。「地元向け／遠方からの観光客向け」、「歴史を感じさせる／感じさせない」といった区分による考察がありました。

各自のアメニティマップに対する教員からの講評を聞いた後で、各自のマップに対する反省とともに、他の人との視点の違いなどについて綴られたレポートが提出されました。同じところを歩いても違ったところに目が向けられ、異なる評価がなされることが実感できたようです。

学習を終えて

今回のフィールドスタディは環境哲学基礎論を履修した人を優先としているだけあって、その講義での内容があちこちに散りばめられていたし、その講義での経験を活かして、アメニティマップの作成の仕方も発展させる形で資料作成を行うことができよかったです。

私は今回アメニティマップを作成するにあって比較するというのを1番意識しました。大久保商店街と地元の厚木一番街の違いや、地元のアメニティマップでも前回と今回で2回行った時にどのように変化があるのかを意識して作成しました。

大久保商店街や厚木一番街は住みやすいということを書きました。地域の人への利用に特化しているため、遠くからの観光客は少ない印象でした。いろいろなところのアメニティマップを作れば、それぞれの商店街のもつ特性に気付くことができるということもわかりました（3年 男子学生）。